

令和5年度 第2回 赤佐小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年 9月5日（火） 9時45分から11時45分まで
- 2 開催場所 赤佐小学校 会議室
- 3 出席委員 山内 正隆、内山真由美、湖東 秀隆、佐藤 敏己、大石 祥範、大城むつ子、文屋沙弥子、石牧 真志、竹内 清人、野末 智美
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 小杉 幸次（中瀬協働センター）
- 6 学 校 松本 孝久（校長）、工藤 幸徳（教頭）、袴田加奈子（主幹教諭）
徳田 衛（CS担当）鈴木 晴代（CSディレクター）
- 7 学校支援CD 伊藤登紀子
- 8 教育委員会 堀田 洋一（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし

10 協議事項

- (1) 議長の選出について
- (2) 前回会議録、第1回協議会議事録の確認
- (3) 熟議内容

- ①学校評価の中間報告について
- ②授業参観を受けて
- ③カリキュラム・マネジメントと学校支援活動について

- 11 会議録作成者 CSディレクター 鈴木 晴代

12 会議記録

教頭から、委員総数10人の全員の出席があり、会議が成立している旨の報告があった。

- (1) 前回会議録、第1回協議会議事録の確認

教頭より前回の会議録の説明があった。

- (2) 議長の選出について

議長の選出について意見を求めたところ、野末委員より立候補があり、全員異議なく承認をした

- (3) 熟議内容

- ① 学校評価の中間報告について

議長の指示により、袴田主幹教諭より学校評価の中間報告について説明があった。

〈報告内容〉

「自分らしさを輝かせながら、友達と協働して主体的に取り組む子」の実現を目標に指導をしている。

児童の評価は全項目において85%以上であった。特に(1)楽しく学校に通っている(2)校内外のあいさつ(3)笑顔で元気よく過ごしている(9)楽しく学べる授業等から、子供たちが【学校が好きだ】ということがわかる。

職員・保護者とも全体的に70%以上は良い評価となっている。

議長が中間報告についてグループで話し合いを提案した。－話し合い－

グループ①（石牧委員・大石委員・湖東委員・文屋委員・工藤教頭）

子供たちが自己肯定感を持って生活していることが分かった。「周りの人の良いところを見つけている」子供が90%以上の評価もとても良いと感じた。子供たちの思いを大切にしていきたいと思います。（石牧）

「先生が困ったときは助けてくれる」が94%あり、先生方の努力がとてもありがたい。

（大石）

グループ②（伊藤CD・山内委員・竹内委員・大城委員・袴田主幹教諭）

主体性が育っていることが分かった。あいさつは登校リーダーがあいさつをすることで、グループの子供たちが一緒にあいさつができています。保護者と子供で数字に開きがある項目が気になる場所です。（伊藤）

グループ③（内山委員・佐藤委員・野末CD・徳田CS担当・鈴木CS）

学校に楽しく通っている子供が多く、それは、楽しく学べる授業の結果であり、先生の生徒たちへの向き合い方がよくわかった。ブログ等に保護者は満足しているが、クラブ活動やブールの様子などはブログの限定公開が可能か検討したい。保護者の学校との関わりをより持てる手段を考えたい。（内山）

以上のような意見を共有し、協議の内容を承認した。

〈一時協議を中断し校内参観をして、子供たちの様子を確認した。〉

② 授業参観を受けて

議長が、中間報告の表れと子供たちの様子を見た感想をグループで話し合うよう提案した。

－話し合い－

グループ①（石牧委員）

子供たちに明るい笑顔が見え、落ち着いて学校生活がスタートしたことを感じた。休んでいる子供たちが、復帰したときに学習が遅れないように2学期のスタートができること良い。

グループ②（伊藤CD）

落ち着いて授業を受けている姿を確認した。低学年は張り切っている。ただ、エアコンのない特別教室での授業は大変だと感じた。

グループ③（内山委員）

席を離れている子供はおらず、集中して授業を受けていた。教室にエアコンが入っていることで、ゆったりと授業ができています。

以上のような意見を共有し、協議の内容を承認した。

③ カリキュラム・マネジメントと学校支援活動について

学校支援活動について、夏季休業中に年間計画に位置づけるように整えた。また、1学期の様子について伊藤CDより報告があった。

4月・1年の下校時・給食のお手伝い

5月・運動会用帽子のゴム紐交換

6月・校外学習の引率・クラブ活動13クラブのお手伝い

これらの活動により、子供の笑顔が増した。

議長が、「目指す児童像」に近づけるための年間計画について、グループで話し合うよう提案した。 —話し合い—

グループ①(石牧委員)

クラブ活動が自分たちの頃とは違う。イメージと取り組みが少し違うため、分かりやすい説明が必要かもしれない。

グループ②(伊藤CD)

釘打ち、ミシンの安全のためには見守りが必要である。クラブ活動は地域と学校とのバランスが必要だが、そのねらいを共有する必要があるだろう。

グループ③(内山委員)

10月に2年の九九暗唱を聞いてもらう活動があり、これは、コミュニティが広がるので、おじいちゃんやおばあちゃんに協力してもらえると良い。「よくできた、すごい」と褒められることで、自己肯定感もあがるだろう。県庁所在地の暗唱等もあるとよいと考えた。

クラブ活動は、以前のねらいとは違ってきており、これまで以上に横のつながりが必要となるだろう。

(工藤教頭)

カリキュラム・マネジメントについては、特に意見はなく、承認した。

《その他連絡事項等》

・クラブ活動への参加について

それぞれの立場で、地域等へ話をしてもらえるとありがたい。10月5日の第2回クラブ活動計画を配布した。

・次回運営協議会は11月27日(月)の予定(9:45~11:45) (工藤教頭)

・2年目とは思えない協議会であるが、無理のないように進めてほしい。家庭、先生が声をかけると共に、お年寄りが声をかけることで、子供たちの自己肯定感が高くなるだろう。

(教育委員会堀田)

・見学をしたときに指導が熱心で、子供たちが集中して取り組みができています。

(協働センター小杉)